

# ナシ「恵水」新技術および新品目導入による 儲かる果樹経営体の育成

県西農林事務所結城地域農業改良普及センター

結城管内では、ナシ、ブドウ、キウイ等の果樹が生産されています。ナシでは、担い手の経営発展に向けて、新品種「恵水」の導入促進・安定生産と早期成園化技術「ナシ樹体ジョイント栽培」に取り組んでいます。また、八千代町において高収益品目であるブドウの導入を推進するため、普及センターと町、JA が連携し、支援体制を整備して新規導入者の技術習得を支援しています。

## 収益性の高いナシ新品種「恵水」の 導入と出荷支援

茨城県オリジナル品種「恵水」は市場でも高く評価され、高単価で販売されています。JA 常総ひかり八千代地区およびJA 北つくば結城地区の各部会に対して、「恵水」の導入推進や栽培指導、適期収穫に向けた目標会の支援を行いました。令和6年には新たに結城地区で出荷が始まり、系統出荷量が大幅に増加しました。

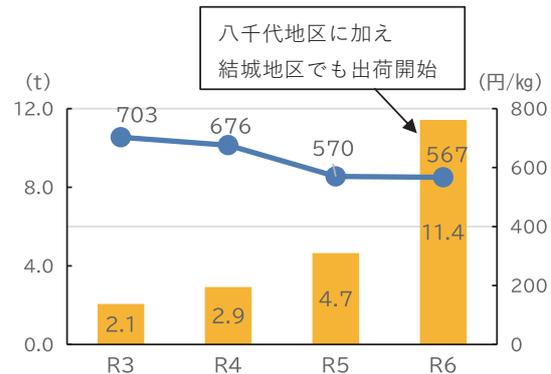


図1 結城管内「恵水」市場出荷量と県平均単価(R3~R6)

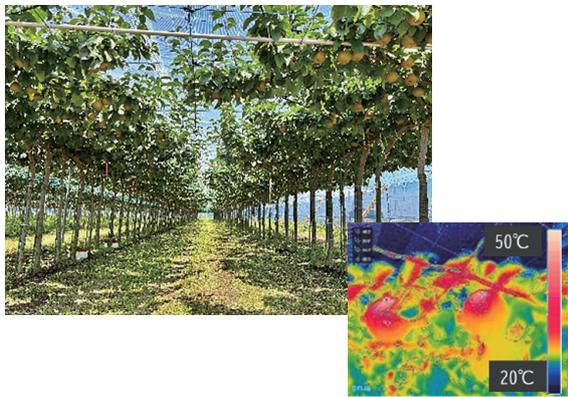


図2 ジョイント栽培と果実温度調査の様子

## 「恵水」樹体ジョイント栽培技術の 確立と高温対策の実施

ナシ樹体ジョイント栽培の実証圃を設置し、早期成園化および省力化を実証するとともに、新梢伸長促進技術の開発を行いました。本ほ場で継続した現地研修会の実施により、取組意欲が高まり、管内のジョイント栽培面積は令和3年の69 aから令和6年は152 aに拡大しました。

本年度から高温対策実証を行い遮光による果実温度低下を確認することができました。

## ブドウ導入支援体制整備

八千代町において、ブドウ導入による地域活性化のため、普及センターと町が協力して新規導入者の掘り起こしを行いました。併せて普及センター、町、JA で支援体制に関する協議を重ねた結果令和5年に「八千代町ブドウ研究会」が設立され、現在14名の生産者が所属しています。普及センターでは広報誌作成や研修等の企画支援を行っており、本年は2回の見回り会と事例研修により、研究会員の技術向上と情報共有が図られました。



図3 八千代町ブドウ研究会の栽培見回り会